

令和 4 年度 学校教育自己診断分析

対象

生徒 702 名（回収率 99.5%） 保護者 579 名（回収率 81.7%）

対象別考察

<生徒>

- ・45 項目中 21 項目において肯定率が増加、21 項目で減少した。5 ポイント以上増加したものは 11 項目、減少したものは 8 項目となった。最も上昇したものは「6. ボランティアや高大連携など、学校外で学ぶ機会がある。」57%で 10 ポイント上昇。公民館活動や地域子育て支援、豊中市行政機関からの依頼等への協力、高齢者施設訪問などにのべ 111 名の生徒がボランティアとして参加した。昨年の 26 名から大幅に増やすことができた結果である。最も下降したものは「28. 学校で地震や火災などの災害がおこった場合の避難行動について知らされている。」70%で 13 ポイント減。今年度は 2 回予定されていた避難訓練が降雨によるグラウンド状態不良のため教室で放送による実施のみとなったことが原因と思われる。
- ・「3. 自分の学力にあった授業が多い。」が 2 年連続で（計 5 ポイント）、「4. 興味・関心を持って取り組むことができる授業が多い。」2 年連続で（計 6 ポイント）下降していることが懸念される。生徒の実態を的確に把握し、教員による指導法、指導内容の工夫と改善が望まれる。
- ・校内で自習する生徒が 53%で 6 ポイント減。それに呼応して「14. 学校の授業以外に、平均すると 1 日 1 時間以上学習している。」43%で 10 ポイント減となっており、ここ数年増加傾向にあっただけに残念である。いま一度、文武両道の精神を部活動や学級指導のなかで生徒に啓発したい。

<保護者>

- ・10 項目において肯定率が増加した。13 項目で満足度が減少している。2 年間連続して減少しているものは 8 項目ある。2 年連続で減少し、2 年間で 5%以上の増減が生じた項目に着目する。

【2 年連続肯定率が 5%以上減少した項目は 2 項目】

「24. 生徒や保護者は、地震や台風などの災害における学校の対応について知らされている。」89%。2 年間で 7 ポイント減。「25. 学校の施設は清掃が行き届き、学習環境が整備されている。」73%。2 年間で 5 ポイント減。

【2 年連続肯定率が 5%以上増加した項目は 2 項目】

「15. 体育祭（今年度はスポーツ大会）、文化祭（今年度は青雲フェス）、音楽祭や修学旅行などの学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。」85%。2 年間で 14 ポイント上昇。「9. 子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」56%。2 年間で 3 ポイント上昇。

また、今年度、5%以上の増減が生じた項目を示す。

【今年度肯定率が 5%以上減少した項目は 1 項目】

- ・「12. 学校の生徒指導の方針に共感できる。」が 5%減少し 73%となった。依然、高い数値となっているが、生徒同様、保護者にもこれまで以上に、コミュニケーションを大切にした粘り強い対応が望まれる。

【今年度肯定率が 5%以上増加した項目は 1 項目】

- ・「26. 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」11%増加し 76%となった。今年度は学校行事を全て実施し、制限を緩和したことが保護者の満足度につながった。

上記以外で、5%以上増減した項目はなかった。

各カテゴリー別

<学校生活>

- ・「1. 学校へ行くのが楽しい」 生徒 81%・保護者 78%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」 生徒 96%・保護者 90%、「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」 生徒 85%、保護者「13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」 82%の肯定的回答があった。多くの生徒が、安心した高校生活を送っており、保護者も安心感を持っていることがうかがえる。
- ・「16. 先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」 生徒 73%（5%ダウン）、「先生はいじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる」 生徒 78%（7%ダウン）、「18. 保健室や教育相談室など、気軽に相談する場所がある。」 生徒 69%（3%アップ）。今年度、重点事項として取組んできた教育相談の充実を来年度も継続し、生徒に教員の寄り添い感が伝わるよう努力が必要である。多様な生徒が入学してくる昨今の状況のなか、一人でも多くの生徒が満足して本校を無事、卒業できるように大切な視点であると言える。

<学習活動>

- ・「5. 実験・観察・実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」 生徒 63%（1%アップ）、「6. ボランティアや高大連携など、学校外で学ぶ機会がある。」 生徒 57%（10%アップ）、「7. 授業では、自分の考えをまとめたリ、話し合ったり、発表することがある。」 生徒 83%（5%アップ）、「8. 学校での様々な活動をとおして、自分の考えを文章にまとめる力が身に付いた。」 生徒 68%（3%アップ 3年間で 11%アップ）。学習に関する肯定率は多くの項目で増加した。新学習指導要領に沿った授業に向けた教員による授業改善の工夫や努力が成果として表れている。嬉しい結果である。

<キャリア教育>

- ・「19. 将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」 生徒 89%（1%アップ 3年間で 9%アップ）「20. 進路についての情報をよく知らせてくれる」 生徒 89%。担任とガイダンス室との連携による、きめ細かい対応やデータに基づいた進路指導部、担任を中心とした生徒に諦めさせない進路指導、そして「総合学科の強みであるキャリア教育」の成果といえる。

<生徒指導>

- ・「4年連続向上していた「生徒指導への納得感」が 49%で 9 ポイント減。引き続き今後も粘り強い指導を継続し「説得」「納得」に基づく指導を心がけ、さらに向上をめざす必要がある。保護者においては「12. 学校の生徒指導の方針に共感できる」 73%（5%ダウン）となっており、生徒同様、保護者にもこれまで以上に、コミュニケーションを大切に、丁寧で粘り強い対応が望まれる。

<人権意識・人権教育>

- ・「25. 人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」 生徒 80%（3%ダウン）、「26. 障がい者のことや、共生の大切さについて学ぶ授業や行事がある。」 生徒 75%（1%アップ）、保護者においては「18. 学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」 83%と 1%ダウンとなったが、依然高い肯定率を示している。今後も、生徒・教員・保護者合同で人権研修を実施し高評価を維持したい。

<情報提供>

- ・「27. 学校のホームページを見ることがある」 保護者 75%は高い肯定率を示している。学校の様子や部活動の活躍、朝夕の講習の様子、図書室の催しのお知らせなどを数多く更新（年 400 回程度のペース）している。また、今年度から学校公式インスタグラムをスタートし、200 以上の投稿を行った。保護者「28. 学校

のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」90%、「29. 学校は教育情報について提供の努力をしている」86%と、情報提供に対する保護者の肯定率は非常に高い。生徒1人1台端末が普及したことやコロナ禍もありオンライン授業は日常のものとなっている。今後もホームページを活用しながら、生徒の元気な姿、様々な場面での活躍を在校生・保護者はもとより、地域や中学生にも発信していく。また、学校から保護者や生徒への情報発信の手段として、グループウェアやフォーム作成ツールを積極的に活用して学校教育活動の周知および危機管理における緊急連絡の発信等を行っていきたい。なお、今回の学校教育自己診断は生徒、保護者とも、オンラインで実施し、ペーパーレス化を実現した。